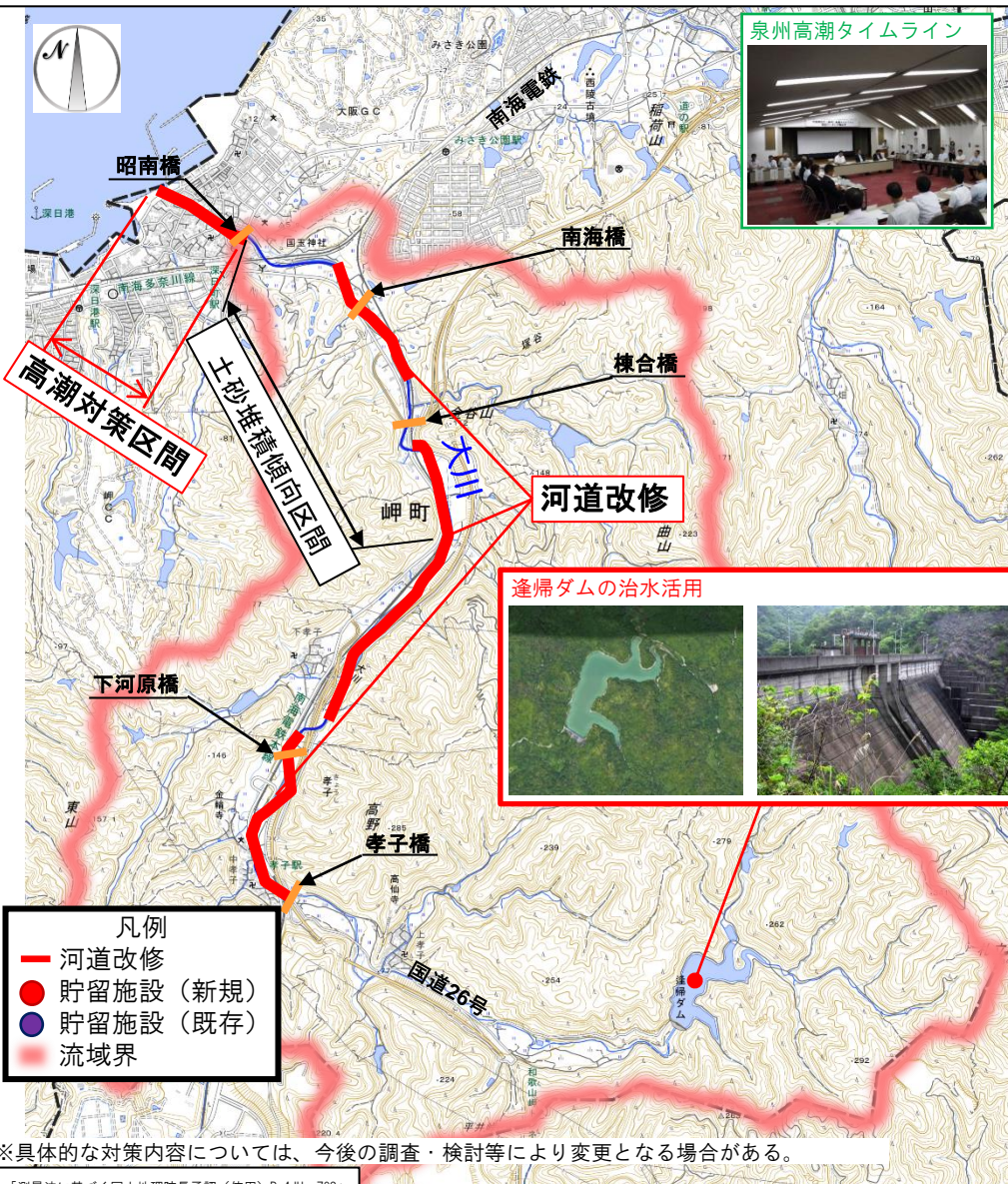


○大川では河口から昭南橋下流区間では高潮対策を行い、時間雨量50ミリ程度の降雨による床下浸水と時間雨量80ミリ程度の降雨による床上浸水を防げるよう、特に南海橋上下流区間では国道26号線や南海電鉄が近接しているため、河川改修を行っている。



●氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河道拡幅、河道掘削【府】
- ・逢帰ダムの治水活用【府、町】
- ・ため池及び農業用施設等の治水活用【府・町・民間】
- ・砂防堰堤の築造【府】
- ・砂防施設の保全【府】
- ・河道内堆積土砂の撤去【府】
- ・下水道等排水施設の整備(要確認)
- ・治山施設・森林の整備及び保全【府】

●被害対象を減少させるための対策

- ・土砂災害特別警戒区域内の既存住宅に対する補助制度
- ・立地適正化計画に基づき水害リスクの低い地域への居住誘導

●被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ①情報伝達、避難計画等に関する事項
 - ・洪水浸水想定区域の指定拡大【府】
 - ・想定最大規模の雨水出水に係る浸水想定区域図等の作成と周知【府・町】
 - ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成及び避難訓練の実施【府・町】
 - ・ホットラインの運用（洪水・土砂・高潮）【府、町】
 - ・タイムラインの策定・運用（広域・町域・地域）【府・町・民間】
 - ・水害危険性の周知促進【府】
 - ・洪水予測や水位情報の提供の強化、水位計、河川カメラの整備【府】
 - ・ICTを活用した洪水情報の提供【府、気象台】
 - ・隣接市町村における避難場所の設定（広域避難体制の構築）等【府・町】
 - ・応急的な退避場所の確保【町】
 - ・町庁舎や災害拠点病院等の機能確保のための対策の充実（耐水化、非常用発電機等の整備）【町】
 - ・排水施設、排水資機材の運用方法の改善【府、町】
 - ・樋門・樋管等の施設の確実な運用体制の確保【府・町】
- ②平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項等
 - ・ハザードマップの改良、周知、活用【府、町】
 - ・防災教育の推進【府、町】
 - ・共助の仕組みの強化、地域防災力の向上のための人材育成【府・町】
 - ・住民一人一人の避難計画(マイタイムライン)・情報マップの作成促進【府、町】等

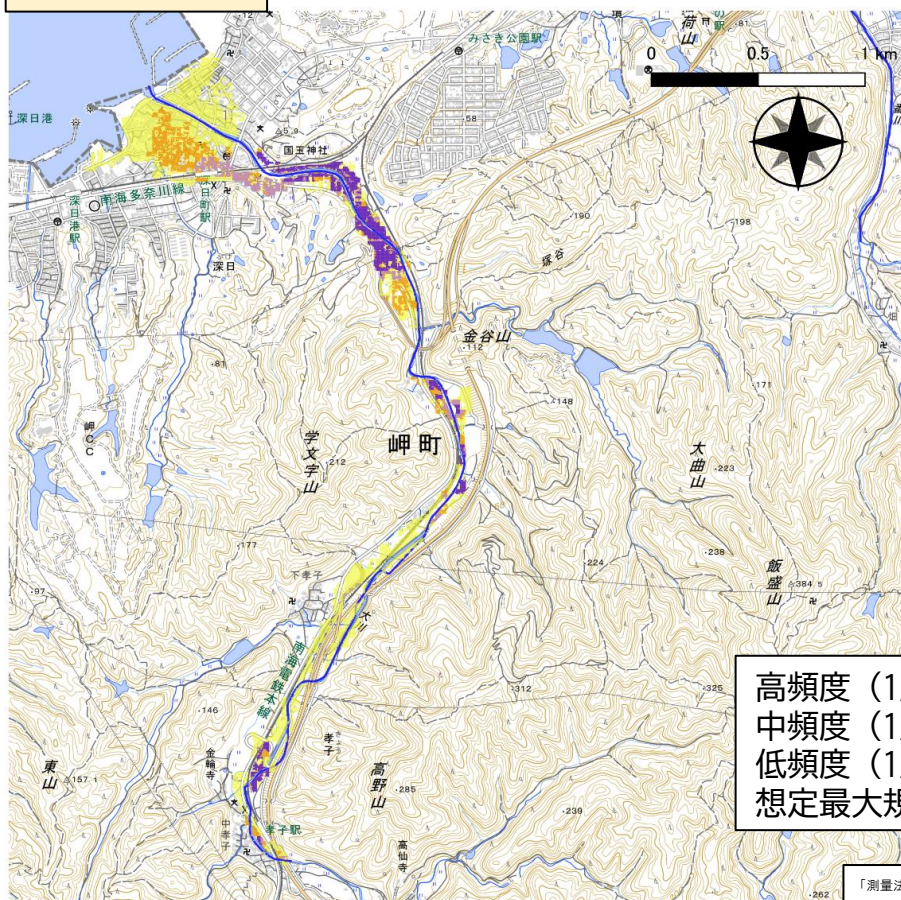
- 大川水系では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、府・市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
- 【短期】 河道改修に着手。洪水・雨水出水浸水想定区域の指定
 - 【中期】 逢帰ダムの治水効果を含む河道改修の推進。気候変動の影響を踏まえた流域治水の検討
 - 【中長期】 時間雨量80ミリ程度（1/100）の降雨に対して家屋床上浸水を発生させない対策とため池の治水活用を完了。気候変動の影響を踏まえた流域治水の検討

区分	対策内容	実施主体	工程			
			R4年度～	短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	大川の河道改修	大阪府	南海橋上下流概成			
	気候変動の影響を踏まえた流域治水の検討	大阪府	調査・検討			
	逢帰ダムの治水活用	大阪府・岬町	調査・検討			
	ため池の治水活用	大阪府・岬町・民間	調査・検討			
	河道内の堆積土砂撤去	大阪府	定期点検による継続監視及び状況により適宜実施			
被害対象を減少させるための対策	土砂災害特別警戒区域内の既存住宅に対する補助制度	大阪府・岬町				
	水害リスクの低い地域への居住誘導（立地適正化計画の策定等）	岬町				
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	①情報伝達、避難計画等に関する事項 ・洪水浸水想定区域の指定拡大 ・雨水出水浸水想定区域の指定 ・市町村、地域タイムラインの策定 ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成 ・防災気象情報の改善 等	大阪府・岬町・気象台	洪水浸水想定区域指定 拡大完了（R4年度）			
	②平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項 ・ハザードマップの改良・周知・活用 ・マイタイムラインの策定 等	大阪府・岬町	雨水出水浸水想定区域図 作成・公表（R7年度）			

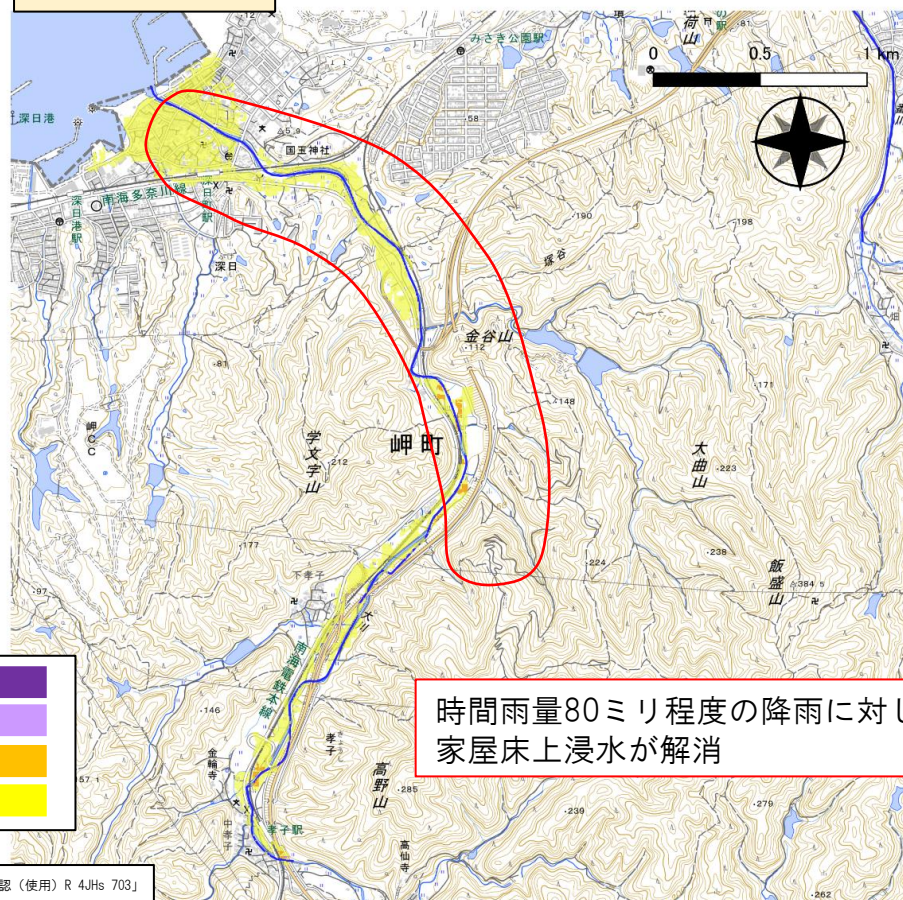
河川整備等による効果

河道改修と既存の逢帰ダムの適切な運用によって、時間雨量 50 ミリ程度（1/10）の降雨を安全に流下させ、時間雨量 80 ミリ程度（1/100）の降雨に対しても流域全体で家屋床上浸水を防ぐ

現 状



整備後



※この図は、1/10、1/30、1/100の確率年及び想定最大規模の降雨により想定される、府管理河川の外水氾濫の浸水範囲である。

※「現状」の図は、氾濫シミュレーション時点（R2）の施設整備状況において想定される浸水範囲を示したものである。

※「整備後」の図は、河川整備計画の整備メニュー実施後において想定される浸水範囲を示したものである。なお想定最大規模については、施設整備の効果を考慮していない。

当面の治水目標に対応
した河川の整備



整備率:〇%
精査中
(令和6年度末時点)

農地・農業用施設
の活用



0町
(令和6年度末時点)

流出抑制対策の実施



既存防災調節池等
0施設
(令和6年度末時点)

山地の保水機能向上
および
土砂流木災害対策



治山対策 0箇所
土石流対策 0施設
(令和6年度実施)

立地適正化計画に
おける防災指針の作成



0町
(令和6年度末時点)

避難のための
ハザード情報の整備



洪水浸水
想定区域 1河川
雨水出水
浸水想定区域 0団体
(令和6年度末時点)

高齢者等避難の
実効性の確保



避難確保
計画 洪水 0施設
土砂 0施設
高潮 0施設
避難訓練 0施設
(令和6年9月末時点)

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

R5大川河川改修工事 (岬町域)



施工前



施工後

南海橋下流

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

防災マップによる防災情報の提供

岬町では、洪水、高潮、土砂災害、地震、津波の各ハザードに対して、どの地域が被害にあう可能性があるかを示す災害情報に加えて、指定一般避難所、指定福祉避難所、一時避難所（高台）、指定緊急避難場所の記載と警察、消防などの防災関連施設を掲載した「岬町総合防災マップ」を作成し、防災情報の提供を行っております。



【岬町総合防災マップ】

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

地区コミュニティタイムラインの取り組み

地区コミュニティタイムラインについて

◆経緯

災害発生時の住民の不安が多かったため
地域の危険性を再確認するため

◆内容

平時から災害時の備え
災害発生時における住民の行動
専門家を講師として招き災害リスクについての説明
ワークショップにおける意見交換

◆効果

マイタイムライン、コミュニティ・タイム
ラインの必要性を認識
地区の危険箇所を認識
災害発生時の機別に応じた避難所の確認
自助・共助による住民間の災害発生時の行
動を認識



【岬町】